

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3148048号
(U3148048)

(45) 発行日 平成21年1月29日 (2009. 1. 29)

(24) 登録日 平成21年1月7日 (2009. 1. 7)

(51) Int.Cl.

F I

B 6 5 D 5/02 (2006. 01)

B 6 5 D 77/00 (2006. 01)

B 6 5 D 77/26 (2006. 01)

B 6 5 D 5/02 Z

B 6 5 D 77/00 A

B 6 5 D 77/26 D

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号	実願2008-7992 (U2008-7992)	(73) 実用新案権者	000238005
(22) 出願日	平成20年11月14日 (2008. 11. 14)		株式会社フジシールインターナショナル
			大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番6号
		(73) 実用新案権者	000202154
			相互印刷紙器株式会社
			大阪府大阪市北区本庄西3丁目8番26号
		(74) 代理人	100108992
			弁理士 大内 信雄
		(72) 考案者	橋本 保雄
			東京都千代田区丸の内1丁目9番1号 株
			式会社フジシール 東京本社内
		(72) 考案者	坂本 真吾
			大阪府大阪市北区本庄西3丁目8番26号
			相互印刷紙器株式会社内

最終頁に続く

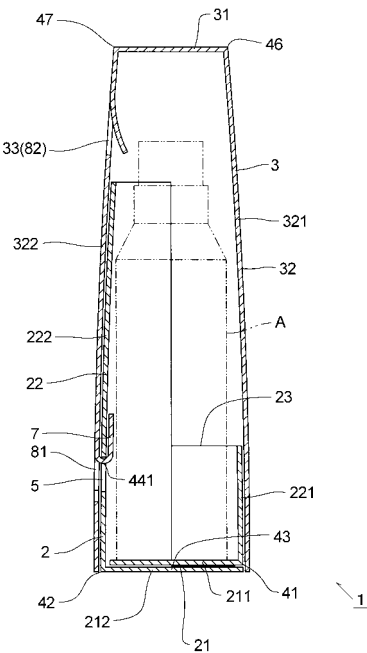
(54) 【考案の名称】 包装用ケース

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 収納体とカバー体とで使用材料を使い分けることで、比較的安価で、ぶら下げて持ち運びできるようにした包装用ケースを提供する。

【解決手段】 包装用ケース1は、物品を収納する紙製の収納体2と、前記収納体2に被せられた合成樹脂シート製のカバー体3と、を備え、前記収納体2が、物品を載せる底面部21と、前記底面部21の周囲から上方に延設された周壁部22と、前記周壁部22の上方に開口された上方開口部23と、を有し、前記カバー体3が、前記収納体2の上方開口部23を覆う天面部31と、前記天面部21の周囲から下方に延設され且つ前記収納体2の周壁部22に覆うカバー壁部32と、を有し、前記収納体2に被せられたカバー体3が前記収納体2に係止されている。好ましくは、前記カバー体3の上方に、取っ手部33が形成されている。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

シート材を組み立てることにより形成された包装用ケースであって、
物品を収納する紙製の収納体と、前記収納体に被せられた合成樹脂シート製のカバー体と、を備え、

前記収納体が、物品を載せる底面部と、前記底面部の周囲から上方に延設された周壁部と、前記周壁部の上方に開口された上方開口部と、を有し、

前記カバー体が、前記収納体の上方開口部を覆う天面部と、前記天面部の周囲から下方に延設され且つ前記収納体の周壁部を覆うカバー壁部と、を有し、

前記カバー体が前記収納体に係止されていることを特徴とする包装用ケース。

10

【請求項 2】

前記カバー体の上方に、取っ手部が形成されている請求項 1 に記載の包装用ケース。

【請求項 3】

前記収納体の周壁部に孔部が設けられ、前記カバー体のカバー壁部に、前記孔部に差し込み可能な差込片部が延設されており、前記差込片部を前記孔部に差し込むことによって、前記カバー体が前記収納体に係止されている請求項 2 に記載の包装用ケース。

【請求項 4】

前記差込片部の幅が、前記孔部の開口幅よりも長く、前記孔部に差し込まれた前記差込片部が、前記収納体の内面側であって前記孔部の上方領域側に折り曲げられている請求項 3 に記載の包装用ケース。

20

【請求項 5】

前記収納体には、左右の切り目が形成されており、前記左方の切り目の下端部が、孔部の左上方縁の近傍に位置し、前記右方の切り目の下端部が、孔部の右上方縁の近傍に位置し、前記左右の切り目は、前記下端部から上方へ向かうほど離反するように形成されている請求項 4 に記載の包装用ケース。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、物品を入れて展示販売する包装用ケースに関する。

【背景技術】

30

【0002】

シャンプー、リンス、化粧品、飲料などを入れた成形容器などの各種の物品が、包装用ケースに収納されて販売されている。特に、本来個別に販売され得る複数の物品を、纏めてセット販売するために、複数の物品が包装用ケースに収納されて販売されている。

かかる包装用ケースは、消費者が購入した後、通常、廃棄される。このため、包装用ケースは、比較的安価であることが好ましい。

【0003】

例えば、特許文献 1 には、互いに対向する一对のシート壁の上端同士及び両側端同士が接続されると共に、シート壁が下端側ほど互いに離間して下端同士が底片を介して接続され、一对のシート壁間に包装対象物が収容される包装用ケースが開示されている。

40

かかる包装用ケースは、所定の平面形状に切り抜かれた 1 枚の合成樹脂シートを、貼着片を利用して組み立てることによって、箱状に形成されている。

【特許文献 1】特開 2006 - 335372 号公報**【考案の開示】****【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、従来の包装用ケースは、1 枚の合成樹脂シートから形成されているので、比較的成本が高いという問題点がある。

具体的には、合成樹脂シートは、紙に比して、原料コストが高い。また、合成樹脂シートに所望の意匠を印刷する場合の印刷コストは、紙に印刷する場合に比して高い。

50

上記従来の包装用ケースは、その全体が１枚の合成樹脂シートから形成されているので、材料コスト及び印刷コストが高いという問題点がある。

【０００５】

また、包装用ケースの性質上、消費者が、ぶら下げて持ち運びできるものが好ましい。

【０００６】

本考案の第１の課題は、比較的安価な包装用ケースを提供することである。さらに、本考案の第２の課題は、ぶら下げて持ち運びできる包装用ケースを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本考案の包装用ケースは、シート材を組み立てることにより形成され、物品を収納する紙製の収納体と、前記収納体に被せられた合成樹脂シート製のカバー体と、を備え、前記収納体が、物品を載せる底面部と、前記底面部の周囲から上方に延設された周壁部と、前記周壁部の上方に開口された上方開口部と、を有し、前記カバー体が、前記収納体の上方開口部を覆う天面部と、前記天面部の周囲から下方に延設され且つ前記収納体の周壁部を覆うカバー壁部と、を有し、前記カバー体が前記収納体に係止されている。

10

【０００８】

上記包装用ケースは、収納体が紙で形成され且つカバー体が合成樹脂シートで形成されているので、全体が合成樹脂シートで形成されている従来の包装用ケースに比して、材料コスト及び印刷コストを抑えることができる。

なお、全体が紙で形成されている包装用ケースの場合には、ケースを通じて収納した物品が見えないが、本考案の包装用ケースであれば、カバー体が合成樹脂シートで形成されているので、カバー体を通じて物品を見ることが可能である。

20

さらに、上記包装用ケースは、カバー体が収納体に係止されているので、保管・運搬時に、両者が分離して、ケース内の物品が脱落するおそれがない。

【０００９】

本考案の好ましい包装用ケースは、前記カバー体の上方に、取っ手部が形成されている。

上記好ましい包装用ケースは、取っ手部を利用してカバー体を把持することにより、手でぶら下げて持ち運びできる。

【００１０】

30

本考案の好ましい包装用ケースは、前記収納体の周壁部に孔部が設けられ、前記カバー体のカバー壁部に、前記孔部に差し込み可能な差込片部が延設されており、前記差込片部を前記孔部に差し込むことによって、前記カバー体が前記収納体に係止されている。

【００１１】

上位好ましい包装用ケースは、孔部に差込片部を差し込むだけで、カバー体を収納体に係止させることができる。

また、孔部から差込片部を抜けば、カバー体の収納体に対する係止を解除して、カバー体を収納体から取り外すことができる。カバー体を外すことにより、物品を収納体から取り出すことができる。

【００１２】

40

本考案の好ましい包装用ケースは、前記差込片部の幅が、前記孔部の開口幅よりも長く、前記孔部に差し込まれた前記差込片部が、前記収納体の内面側であって前記孔部の上方領域側に折り曲げられている。

【００１３】

上記好ましい包装用ケースは、差込片部の幅が、孔部の開口幅よりも長く形成されているので、差し込んだ差込片部が孔部から抜けにくく、カバー体を収納体に確実に係止させることができる。

また、差込片部が孔部の上方領域における収納体の内面側に折り曲げられているので、取っ手部を利用して包装用ケースをぶら下げたときに、差込片部が収納体の孔部の上方縁に食い込むように引掛かる。このため、包装用ケースを持ち運びしている途中で、収納体

50

がカバー一体から離脱するおそれがない。

なお、上記幅広の差込片部は、孔部から抜けにくいため、カバー一体の収納体に対する係止を解除しにくい、収納体は紙で形成されているので、手で破くことができる。このため、差込片部が折り曲げられている領域（孔部の上方領域）において、収納体を破ることによって、カバー一体の係止を解除できる。

【0014】

本考案の好ましい包装用ケースは、前記収納体に、左右の切り目が形成されており、前記左方の切り目の下端部が、孔部の左上方縁の近傍に位置し、前記右方の切り目の下端部が、孔部の右上方縁の近傍に位置し、前記左右の切り目は、前記下端部から上方へ向かうほど離反するように形成されている。

10

【0015】

上記好ましい包装用ケースは、収納体に左右の切り目が形成されているので、収納体のうち上記差込片部が折り曲げられている領域（孔部の上方領域）を、容易に破ることができる。よって、カバー一体の収納体に対する係止を容易に解除できる。

【考案の効果】

【0016】

本考案の包装用ケースは、物品を良好に収納でき、且つ、比較的安価である。さらに、本考案の包装用ケースは、手でぶら下げて持ち運びでき、又、物品も容易に取り出すことができる。

【考案を実施するための最良の形態】

20

【0017】

以下、本考案の好ましい実施形態について、図面を参照しつつ具体的に説明する。

なお、各部の用語の接頭語として、第1、第2などを付す場合があるが、該接頭語は、用語を区別するために付加されるものであり、各部の順序や優劣などを意味しない。また、方向を示す用語として「上下」や「前後」は、収納体を下に向け、本考案の包装用ケースを自立させた状態を基準にしている。

【0018】

図1～図5に於いて、1は、物品Aを収納する収納体2と、前記収納体2に被せられたカバー一体3と、を有する包装用ケースを示す。

なお、収納体2を構成する展開シートを、図6に示し、カバー一体3を構成する展開シートを、図7に示す。この展開シートをそれぞれ組み立てることにより、収納体2及びカバー一体3が得られる。図6及び図7の展開シートに付された符号は、収納体2及びカバー一体3の各部にそれぞれ対応している。なお、図6及び図7において、各折り罫線を一点鎖線で表す。

30

【0019】

上記収納体2は、紙から形成されている。

収納体2を形成する紙は、余りに薄いものを用いると物品Aを載せたときに大きく変形し、一方、余りに厚いものを用いるとコスト的に不利となる。この点から、紙は、 $190\text{ g/m}^2 \sim 1500\text{ g/m}^2$ のもの（所謂厚紙）が好ましく、更に、 $260\text{ g/m}^2 \sim 370\text{ g/m}^2$ のものがより好ましい。

40

【0020】

上記収納体2には、必要に応じて、所望の意匠が印刷される。

【0021】

収納体2は、物品Aを載せる底面部21と、底面部21の周囲から上方に延設された周壁部22と、周壁部22の上方に開口され且つ物品Aを出し入れする上方開口部23と、を有する。

底面部21の前辺及び後辺は、周壁部22の前辺及び後辺に、第1折り罫線41及び第2折り罫線42を介して連設されている。底面部21の両側辺は、平面視山形状に形成され、この両側辺は、周壁部22に連設されていない自由辺とされている。

底面部21は、第1折り罫線41及び第2折り罫線42において、周壁部22に対して

50

略直交状に折り曲げられている。

【0022】

また、底面部 2 1 の面内には、底面部 2 1 を 2 等分するような位置に、第 3 折り罫線 4 3 が形成されている。この第 3 折り罫線 4 3 は、底面部 2 1 の前辺と略平行な方向に延びて形成されている。

【0023】

なお、本実施形態では、底面部 2 1 は、図 3 に示すように、周壁部 2 2 の前辺から第 1 折り罫線 4 1 を介して延設された第 1 底面片 2 1 1 と、周壁部 2 2 の後辺から第 2 折り罫線 4 2 を介して延設された第 2 底面片 2 1 2 と、から構成されている。

この第 2 底面片 2 1 2 の面内には、第 2 底面片 2 1 2 を 2 等分するような位置に、上記第 3 折り罫線 4 3 が形成されている。

上記第 2 底面片 2 1 2 上に第 1 底面片 2 1 1 が重ねられ、その重ね合わせ部分のうち、第 3 折り罫線 4 3 から第 1 折り罫線 4 1 で囲われた領域内が接着されることによって（図 3 において、接着部分を黒塗りで示す）、上記底面部 2 1 が形成されている。

なお、この底面部 2 1 は、第 3 折り罫線 4 3 において山折りする（周壁部 2 2 の内側方向へ折る）ことにより、2 つに折り畳むことができる。

【0024】

周壁部 2 2 は、前面 2 2 1 と、後面 2 2 2 と、を有する。前面 2 2 1 と後面 2 2 2 の両側辺は、それぞれ第 4 折り罫線 4 4 及び第 5 折り罫線 4 5 を介して連設されている。

なお、本実施形態では、周壁部 2 2 は、後面 2 2 2 の一側辺から延設された糊代片 2 2 3 を前面 2 2 1 の一側辺に接着することにより、前面 2 2 1 と後面 2 2 2 が連設されている。

【0025】

周壁部 2 2 は、前面 2 2 1 及び後面 2 2 2 の中央部を互いに外側へ引き離すことにより、筒状に形成されている。

なお、この周壁部 2 2 は、前記一对の折り罫線 4 4 , 4 5 において山折りすることにより、前面 2 2 1 及び後面 2 2 2 が重なり、略扁平状に折り畳むことができる。

従って、収納体 2 は、物品 A を収納しない時（不使用時）、2 つ折りにした底面部 2 1 を周壁部 2 2 の前面 2 2 1 及び後面 2 2 2 の間に介在させた状態で、略扁平状に折り畳むことができる。

【0026】

上記周壁部 2 2 の後面 2 2 2 及び前面 2 2 1 の高さは、略同一でもよいが、本実施形態では、後面 2 2 2 の高さが前面 2 2 1 よりも高く形成されている。

後面 2 2 2 の高さは、物品 A の高さと同様又はそれ以上であることが好ましい。

かかる後面 2 2 2 を有する収納体 2 は、それに物品 A を収納したとき、物品 A の背後に比較的大面積の後面 2 2 2 を配置できる。このため、物品 A の背景面が大きくなり、物品 A を見栄え良く収納できる。

【0027】

他方、前面 2 2 1 の高さは、後面 2 2 2 の高さに対して $1/2$ 倍～ $1/6$ 倍が好ましく、更に、 $1/3$ 倍～ $1/5$ 倍がより好ましい。

前面 2 2 1 の高さが余りに高いと、収納された物品 A の多くが前面 2 2 1 によって遮蔽されるため、消費者が物品 A を視認し難く、又、収納体 2 内に物品 A を出し入れし難くなる。一方、前面 2 2 1 の高さが余りに低いと、物品 A が不用意に収納体 2 から離脱するおそれがある。

【0028】

上記収納体 2 の周壁部 2 2 は、その面内に孔部 5 を有する。該孔部 5 は、周壁部 2 2 に穴を穿設することにより形成されている。

前記孔部 5 は、周壁部 2 2 の前面 2 2 1 又は後面 2 2 2 に形成される。孔部 5 は、図示したように 1 箇所でもよいし、複数箇所形成されていてもよい。例えば、孔部 5 は、前面 2 2 1 及び後面 2 2 2 にそれぞれ 1 箇所又は複数箇所形成されていてもよい。

【 0 0 2 9 】

好ましくは、図示したように、孔部 5 は、後面 2 2 2 の 1 箇所形成されている。なお、特に図示しないが、孔部 5 は、後面 2 2 2 の複数箇所に形成されていてもよい。

後面 2 2 2 に孔部 5 を形成することにより、包装用ケース 1 の前面側から孔部 5 が消費者に見えにくくなる。

【 0 0 3 0 】

この孔部 5 の形成位置は、特に限定されないが、孔部 5 は、包装用ケース 1 内に収納される物品の間隙に位置するように形成することが好ましい。

例えば、本実施形態の包装用ケース 1 は、ケース 1 内に 2 つの物品 A（例えば、シャンプー容器、リンス容器などの円筒状容器）を並べて収納できる。この場合、隣接する 2 つの物品 A、A の間に、上記間隙が存在する。このため、前記孔部 5 は、後面 2 2 2（又は前面 2 2 1）の幅方向中央部に形成される。

なお、孔部 5 の上下位置は、特に限定されないが、好ましくは収納体 2 の下方側である。

【 0 0 3 1 】

前記孔部 5 の穴形状は、特に限定されず、略四角形状（略長方形、略正方形、略逆台形、略台形など）、略逆三角形状、略円形状、略楕円形状、その他の多角形状などが挙げられる。孔部 5 の穴形状は、好ましくは、略四角形状であり、より好ましくは、図示したような、孔部 5 の上方縁が下方縁よりも長い、略逆台形状である。

【 0 0 3 2 】

前記収納体 2 には、孔部 5 に対応して、左右の切り目 6 1、6 2 が形成されている。

本実施形態では、孔部 5 は後面 2 2 2 に形成されているので、前記切り目 6 1、6 2 は、後面 2 2 2 に形成されている。

【 0 0 3 3 】

左方の切り目 6 1 の下端部 6 1 a は、孔部 5 の左上方縁（略四角形状の孔部 5 の左上角）の近傍に位置している。該左方の切り目 6 1 は、その下端部 6 1 a から左斜め上方（孔部 5 の中心を基準とする放射方向）に延びて形成されている。

右方の切り目 6 2 の下端部 6 2 a は、孔部 5 の右上方縁（略四角形状の孔部 5 の右上角）の近傍に位置している。該右方の切り目 6 2 は、その下端部 6 2 a から右斜め上方（孔部 5 の中心を基準とする放射方向）に延びて形成されている。

従って、上記左右一対の切り目 6 1、6 2 は、孔部 5 の縁に繋がっておらず、両下端部 6 1 a、6 2 a から上方へ向かうに従って次第に離反するように、傾斜状に形成されている。

好ましくは、上記一対の切り目 6 1、6 2 は、左右対称に形成される。

【 0 0 3 4 】

上記切り目 6 1、6 2 は、後面 2 2 2 を貫通する貫通線である。切り目 6 1、6 2 は、断続的に形成された短い貫通線（一般に、ミシン目と呼ばれる）でも良いし、1 本の長い貫通線でもよい。また、切り目 6 1、6 2 は、図 5 及び図 6 に示すように、短い貫通線と長い貫通線が組み合わされていてもよい。

【 0 0 3 5 】

カバー体 3 は、合成樹脂シートから形成されている。

カバー体 3 を構成する合成樹脂シートは、余りに軟らかいものを用いると剛性が十分でなく、一方、余りに硬いものを用いると剛性が強すぎて、収納体 2 に被せることが困難となる。これを考慮すると、合成樹脂シートの厚みは、0.18 mm ~ 1.0 mm であり、好ましくは 0.20 mm ~ 0.60 mm である。

【 0 0 3 6 】

合成樹脂シートとしては、単層の合成樹脂シート、異種又は同種の合成樹脂シートが 2 層以上積層された多層の合成樹脂シート、金属蒸着層を有する合成樹脂シート、合成樹脂シートと他の機能層との積層シートなどが挙げられる。好ましくは、単層の合成樹脂シート又は多層の合成樹脂シートが用いられ、より好ましくは、単層の合成樹脂シートが用い

10

20

30

40

50

られる。

合成樹脂シートの材質としては、例えば、ポリプロピレン、ポリエチレンなどのポリオレフィン系、ポリエチレンテレフタレートなどのポリエステル系、ポリスチレン系、ポリアミド系などが挙げられる。中でも、曲げ特性に優れているので、ポリプロピレン系の合成樹脂シートが好ましい。

【 0 0 3 7 】

また、上記合成樹脂シートは、透明性に優れていることが好ましい。該シートの透明性の基準としては、その全光線透過率が 70 % 以上が好ましく、より好ましくは 80 % 以上であり、特に好ましくは 90 % 以上である。ただし、全光線透過率は、J I S K 7 1 0 5 (プラスチックの光学的特性試験方法) に準拠した測定法によって測定される値をいう。

10

【 0 0 3 8 】

さらに、合成樹脂シートは、無色であることが好ましいが、透明性を損なわない範囲で着色されていてもよい。

本考案の包装用ケース 1 は、印刷コストが安価な紙製の収納体 2 を有するので、該収納体 2 に印刷を施しておけば、カバー体 3 には、必ずしも印刷を施す必要性はない。このため、より安価な包装用ケース 1 を提供できる。

もっとも、カバー体 3 に所望の意匠を印刷してもよい。

【 0 0 3 9 】

カバー体 3 は、上記収納体 2 の上方開口部 2 3 を覆う天面部 3 1 と、天面部 3 1 の周囲から下方に延設され且つ収納体 2 の周壁部 2 2 を覆うカバー壁部 3 2 と、上方に形成された取っ手部 3 3 と、を有する。ただし、「カバー体 3 の天面部 3 1 及びカバー壁部 3 2 が、収納体 2 の上方開口部 2 3 及び周壁部 2 2 を覆う」とは、これらを隙間なく完全に覆うという意味ではない。

20

【 0 0 4 0 】

天面部 3 1 の前辺及び後辺は、カバー壁部 3 2 の前上辺及び後上辺に、第 6 折り罫線 4 6 及び第 7 折り罫線 4 7 を介して連設されている。天面部 3 1 の両側辺は、平面視山型状に形成され、この両側辺は、カバー壁部 3 2 に連設されていない自由辺とされている。

天面部 3 1 は、第 6 折り罫線 4 6 及び第 7 折り罫線 4 7 において、カバー壁部 3 2 に対して略直交状に折り曲げられている。

30

【 0 0 4 1 】

また、天面部 3 1 の面内には、天面部 3 1 を 2 等分するような位置に、第 8 折り罫線 4 8 が形成されている。この第 8 折り罫線 4 8 は、天面部 3 1 の前辺と略平行な方向に延びて形成されている。

天面部 3 1 は、第 8 折り罫線 4 8 において山折りすることにより、2 つに折り畳むことができる。

【 0 0 4 2 】

カバー壁部 3 2 は、前面 3 2 1 と、後面 3 2 2 と、を有する。前面 3 2 1 と後面 3 2 2 の両側辺は、それぞれ第 9 折り罫線 4 9 及び第 10 折り罫線 4 10 を介して連設されている。

40

なお、本実施形態では、カバー壁部 3 2 は、前面 3 2 1 の両側辺から延設された糊代片 3 2 3 を後面 3 2 2 の両側辺に接着することにより、前面 3 2 1 と後面 3 2 2 が連設されている。

【 0 0 4 3 】

カバー壁部 3 2 は、前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 の中央部を互いに外側へ引き離すことにより、筒状に形成されている。

なお、このカバー壁部 3 2 は、前記一対の折り罫線 4 9 , 4 10 において山折りすることにより、前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 が重なり、略扁平状に折り畳むことができる。

従って、カバー体 3 は、不使用時、天面部 3 1 及びカバー壁部 3 2 を折り畳むことにより、略扁平状に折り畳むことができる。

50

【 0 0 4 4 】

上記カバー壁部 3 2 の前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 の高さは、異なってもよいが、略同一であることが好ましい。

カバー壁部 3 2 の高さは、カバー体 3 を収納体 2 に被したときに、天面部 3 1 が収納された物品 A に当たらず、且つ、カバー壁部 3 2 の下辺が収納体 2 の底面部 2 1 と略同じ又は底面部 2 1 よりも少し上方に位置することが好ましい。

【 0 0 4 5 】

さらに、カバー壁部 3 2 の前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 の下方両角部は、第 9 折り罫線 4 9 及び第 1 0 折り罫線 4 1 0 の中途部から前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 の下辺の中途部を結んだ傾斜線 X , X において切除されている。

10

この切除部分は、カバー部材 3 を収納体 2 に被せたときに、カバー部材 3 のカバー壁部 3 2 と収納体 2 の周壁部 2 2 の上端部の間に隙間が生じない大きさとされる。

すなわち、カバー体 3 を収納体 2 に被せたときに、傾斜線 X の上端部（第 9 折り罫線 4 9 及び第 1 0 折り罫線 4 1 0 の中途部）が収納体 2 の周壁部 2 2 の上端部よりも下方に位置するように、カバー壁部 3 2 の前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 が切除されている。

なお、本実施形態では、周壁部 2 2 の前面 2 2 1 の高さが低いので、傾斜線 X の上端部が周壁部 2 2 の前面 2 2 1 の上端部よりも下方に位置するように、カバー壁部 3 2 の前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 の下方両隅部が切除されている。

【 0 0 4 6 】

カバー壁部 3 2 の前面 3 2 1 及び後面 3 2 2 の下方両角部が切除されていることにより、カバー体 3 を収納体 2 に被せる際に、カバー体 3 の下端部が収納体 2 の上端部に干渉し難く、カバー体 3 を収納体 2 に容易に被せることができる。

20

【 0 0 4 7 】

上記カバー体 3 のカバー壁部 3 2 には、収納体 2 の孔部 5 に差し込み可能な差込片部 7 が形成されている。

この差込片部 7 は、カバー壁部 3 2 から延設された部分であり、孔部 5 に対応して設けられている。

例えば、孔部 5 が 2 箇所形成されている場合、差込片部 7 は、カバー体 3 を収納体 2 に被せたときにそれぞれの孔部 5 に対応する位置に、2 箇所形成される。

【 0 0 4 8 】

30

差込片部 7 は、別個のシート片をカバー壁部 3 2 の内面に添付することによって形成されていてもよいが、図示したように、カバー壁部 3 2 の一部分から一体的に延設されていることが好ましい。

【 0 0 4 9 】

具体的には、カバー壁部 3 2 の後面 3 2 2 の面内に、有端状の切り目 8 1 が形成されている。この切り目 8 1 で囲われた領域が、差込片部 7 となる。

この切り目 8 1 の両端部は、離反しており、切り目 8 1 で囲われた領域（差込片部 7）は、切り目 8 1 の両端部間において後面 3 2 2 に連設されている。切り目 8 1 は、その両端部を基準にして下方側に形成されている。

従って、差込片部 7 の延出向きは、下方である（差込片部 7 の連設部分が上側に位置し、且つ差込片部 7 の先端が下側に位置する）。

40

【 0 0 5 0 】

差込片部 7 の形状は、特に限定されないが、その幅が孔部 5 の開口幅よりも長く形成されていることが好ましい。かかる幅広の差込片部 7 は、該差込片部 7 を孔部 5 に差し込んだときに、孔部 5 から抜けにくくなるので好ましい。

【 0 0 5 1 】

上記幅広の差込片部 7 は、後面 3 2 2 に対して第 1 1 折り罫線 4 1 1 を介して折り曲げ可能に連設され且つ孔部 5 の開口面積と略同面積の基片部 7 4 と、前記基片部 7 4 の両側端から外側に延び（孔部 5 の両側縁よりも外側に延び）且つ孔部 5 の開口幅よりも幅広となる左右一対の第 1 及び第 2 延設片部 7 1 , 7 2 と、前記基片部 7 4 の下端から外側に延

50

びる（孔部 5 の下縁よりも下方側に延びる）第 3 延設片部 7 3 と、を有する。

【0052】

第 1 及び第 2 延設片部 7 1 , 7 2 の延出長さ（幅）は、余りに長いと差込片部 7 を孔部 5 に差し込むことが困難となり、一方、余りに短いと差込片部 7 を孔部 5 から抜けにくくする効果を奏し難い。この点を考慮すると、第 1 及び第 2 延設片部 7 1 , 7 2 の延出長さは、それぞれ 5 mm ~ 20 mm が好ましく、5 mm ~ 10 mm がより好ましい。

なお、上記差込片部 7 は、第 3 延設片部 7 3 が延設されているので、孔部 5 の開口上下長さよりも長い。このため、該差込片部 7 は、孔部 5 から更に抜け難くなるので、より好ましい態様である。

第 3 延設片部 7 3 の延出長さ（上下長さ）は、1 mm ~ 10 mm が好ましく、3 mm ~ 7 mm がより好ましい。

10

【0053】

上記差込片部 7 は、図 2 ~ 図 4 に示すように、孔部 5 に差し込まれた後、第 1 1 折り罫線 4 1 1 において 180 度折り曲げられている。折り曲げられた差込片部 7 は、その第 1 及び第 2 延設片部 7 1 , 7 2 が収納体 2 の左右一对の切り目 6 1 , 6 2 に重なるように、収納体 2 の内面側であって孔部 5 の上方領域に近接している。

また、差込片部 7 は、その折り曲げ部分が孔部 5 の上方縁に接している。

このように差込片部 7 を孔部 5 内に差し込むことによって、カバー体 3 が収納体 2 に係止される。

【0054】

20

さらに、カバー体 3 のカバー壁部 3 2 には、取っ手部 3 3 が形成されている。

この取っ手部 3 3 は、例えば、カバー壁部 3 2 の後面 3 2 2 の上方中央部に有端状の切り目 8 2 を形成することにより、後面 3 2 2 の面内に形成されている。

この切り目 8 2 で囲われた領域を内側へ押し込むことにより、後面 3 2 2 の上方に手を挿入可能な開口（取っ手部 3 3）が形成される。

【0055】

上記包装用ケース 1 は、収納体 2 が紙で形成され且つカバー体 3 が合成樹脂シートで形成されているので、全体が合成樹脂シートで形成されている従来の包装用ケースに比して、材料コスト及び印刷コストを抑えることができる。

また、全体が合成樹脂シートから形成された従来の包装用ケースは、ケースの形状を保持するため比較的剛性の高い（分厚い）合成樹脂シートを用いる必要がある。この点、本考案の包装用ケース 1 は、紙製の収納体 2 が、合成樹脂シート製のカバー体 3 を補強してその形状を保持するため、比較的薄い合成樹脂シートを用いることも可能である。このため、本考案によれば、より安価な包装用ケース 1 を提供できる。

30

また、上記包装用ケース 1 は、カバー体 3 を通じて、収納された物品 A が見えるので、展示販売用のケースとして優れている。

【0056】

さらに、上記包装用ケース 1 は、取っ手部 3 3 を利用して、手で持ち運びできる。

包装用ケース 1 をぶら下げた際、孔部 5 に差し込まれ且つ折り曲げられた差込片部 7 の折り曲げ部分が、孔部 5 の上方縁に食い込むように引掛かる。このため、包装用ケース 1 を運搬中に、収納体 2 がカバー体 3 から離脱するおそれがない。

40

【0057】

上記包装用ケース 1 は、カバー体 3 を収納体 2 から外すことにより、物品 A を取り出すことができる。

例えば、収納体 2 の孔部 5 に差し込まれたカバー体 3 の差込片部 7 を該孔部 5 から抜くことによって、カバー体 3 の収納体 2 に対する係止を解除できる。

また、収納体 2 は、紙で形成されているので、収納体 2 の一部分（差込片部 7 が折り曲げられている領域）を破ることによって、差込片部 7 を収納体 2 から抜き、カバー体 3 の係止を解除できる。

【0058】

50

上記包装用ケース 1 は、収納体 2 の面内に左右の切り目 6 1 , 6 2 が形成されている。

このため、図 8 及び図 9 に示すように、孔部 5 から指を入れて差込片部 7 の表面に当て、その指を外側に引くことにより、切り目 6 1 , 6 2 と孔部 5 の縁の間が容易に破れ、左右の切り目 6 1 , 6 2 の下端部と孔部 5 の左右上方縁とが繋がり、収納体 2 に大きな破断開口が生じる。かかる大きな破断開口が生じるので、該開口から幅広の差込片部 7 を容易に抜き出すことができる。

【 0 0 5 9 】

なお、収納体 2 に形成された左右の切り目 6 1 , 6 2 は、孔部 5 の縁にまで形成されておらず、且つ上方へ向かうに従って次第に離反するように傾斜状に形成されているので、包装用ケース 1 をぶら下げても、孔部 5 の縁と切り目 6 1 , 6 2 が不用意に繋がるおそれがない。

10

【 0 0 6 0 】

次に、本考案の包装用ケース 1 の他の実施形態を示す。

上記実施形態では、差込片部 7 は孔部 5 の開口幅よりも幅広に形成されているが、例えば、図 1 0 (a) 及び (b) に示すように、差込片部 7 の幅が、孔部 5 の開口幅と略同一又はそれよりも短く形成されていてもよい。かかる差込片部 7 も上記実施形態と同様に、孔部 5 に差し入れた後、上側に折り曲げることによって、孔部 5 の上方縁に係止される。

【 0 0 6 1 】

さらに、上記実施形態では、カバー体 3 の差込片部 7 を折り曲げて孔部 5 に係止しているが、これに限定されず、例えば、図 1 0 (c) 及び (d) に示すように、差込片部 7 を曲げずに、差込片部 7 を孔部 5 の下方側から上方側へ差し込んでもよい。この場合、差込片部 7 の延出向きは、上記実施形態の差込片部とは反対に、上方である (差込片部 7 の連設部分がカバー体 3 の下側に位置し、且つ差込片部 7 の先端がカバー体 3 の上側に位置する) 。かかる他の実施形態の差込片部 7 でも、包装用ケース 1 をぶら下げたときに、収納体 2 がケース体 3 から離脱し難い。

20

【 0 0 6 2 】

さらに、上記実施形態では、カバー体 3 を収納体 2 に係止する手段として、差込片部 7 と孔部 5 を用いているが、係止手段はこれに限られず、例えば、図 1 1 に示すように、粘着テープ 1 9 を用いて、カバー体 3 と収納体 2 の一部分を貼着してもよい。なお、粘着テープに代えて、カバー体 3 と収納体 2 の内面同士を、接着剤を用いて部分的に貼着してもよい。もっとも、この他の実施形態の場合には、カバー体 3 を収納体 2 から外し難くなる。このため、カバー体 3 と収納体 2 の貼着部分の周りを取り囲むように、カバー体 3 と収納体 2 の両者に貫通するミシン目 9 2 , 9 3 を形成しておくことが好ましい。貼着部分を内側に押圧すると、前記ミシン目 9 2 , 9 3 に沿って貼着部分がカバー体 3 及び収納体 2 から分離され、簡単にカバー体 3 を収納体 2 から外すことができる。

30

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 6 3 】

【 図 1 】 本発明の包装用ケースの 1 つの実施形態を示す前面上側から見た斜視図。

【 図 2 】 同ケースを後面上側から見た斜視図。

【 図 3 】 図 2 の A - A 線断面図。

40

【 図 4 】 図 2 の B - B 線断面図。

【 図 5 】 同ケースを後面上側から見た分解斜視図。

【 図 6 】 収納体を構成する展開シートの平面図。

【 図 7 】 カバー体を構成する展開シートの平面図。

【 図 8 】 同ケースの使用状態を示す後面上側から見た斜視図。

【 図 9 】 図 8 の C - C 線断面図。

【 図 1 0 】 (a) は、差込片部の他の実施形態を示す要部拡大図、(b) は、前記 (a) の D - D 線断面図、(c) は、差込片部の更なる他の実施形態を示す要部拡大図、(d) は、前記 (c) の E - E 線断面図。

【 図 1 1 】 本発明の包装用ケースの他の実施形態を示す後面上側から見た斜視図。

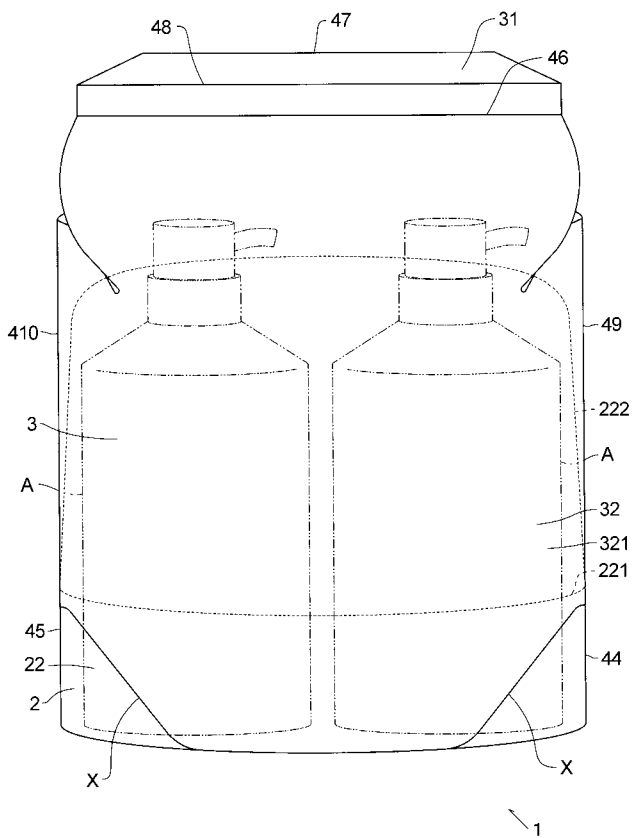
50

【符号の説明】

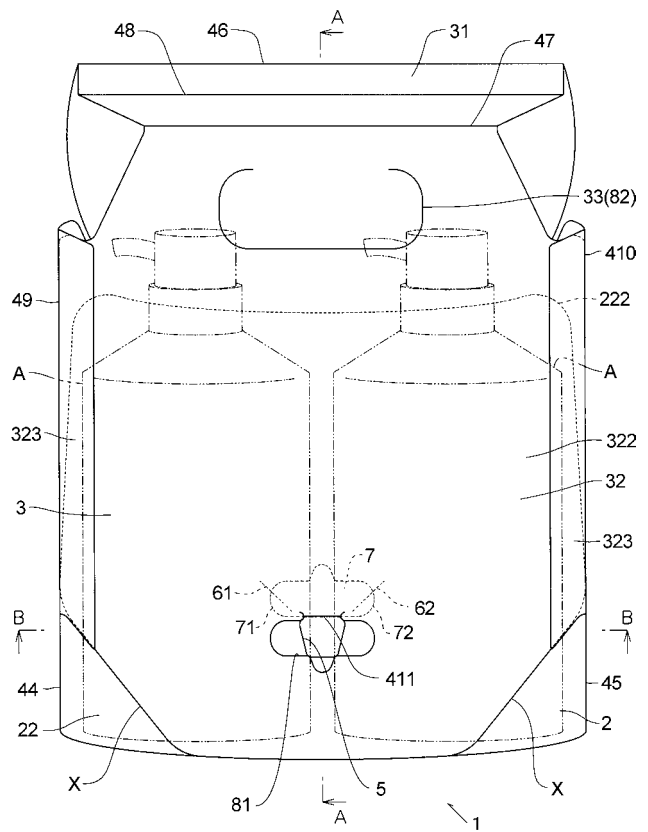
【0064】

1 ... 包装用ケース、2 ... 収納体、21 ... 底面部、22 ... 周壁部、23 ... 上方開口部、3 ... カバー体、31 ... 天面部、32 ... カバー壁部、33 ... 取っ手部、41 ~ 410 ... 各折り罫線、5 ... 孔部、61, 62 ... 左右の切り目、7 ... 差込片部

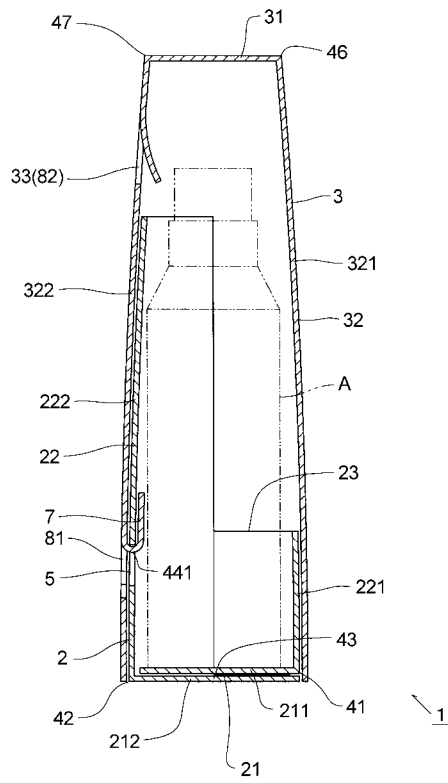
【図1】



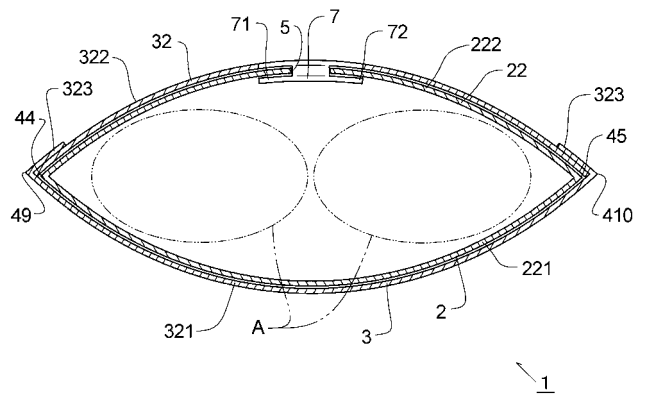
【図2】



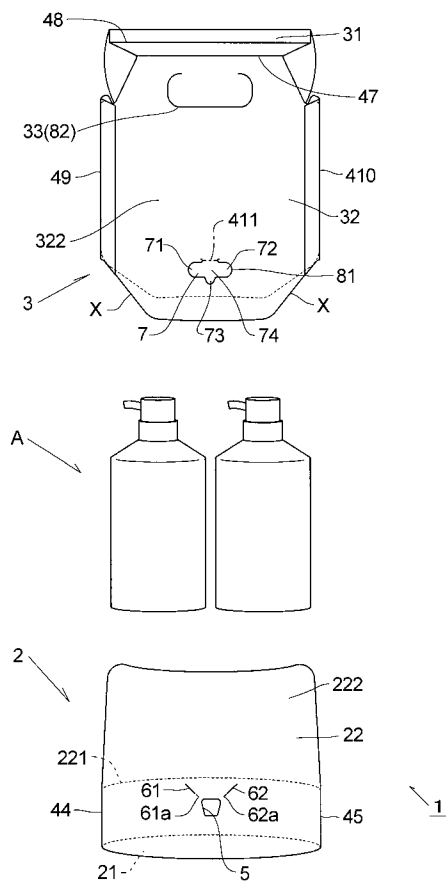
【図 3】



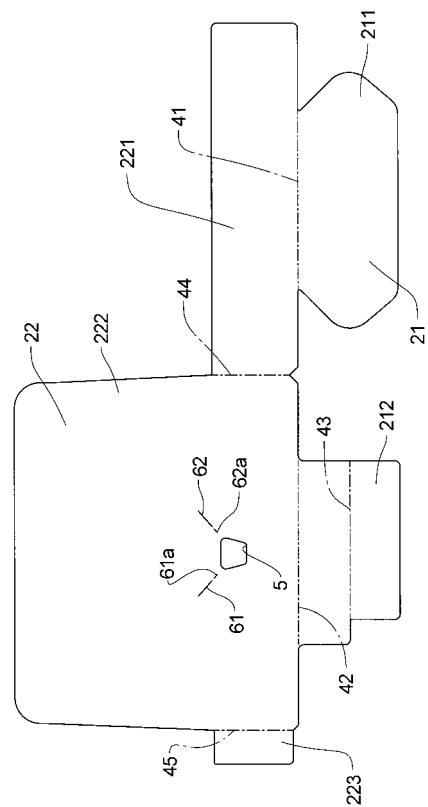
【図 4】



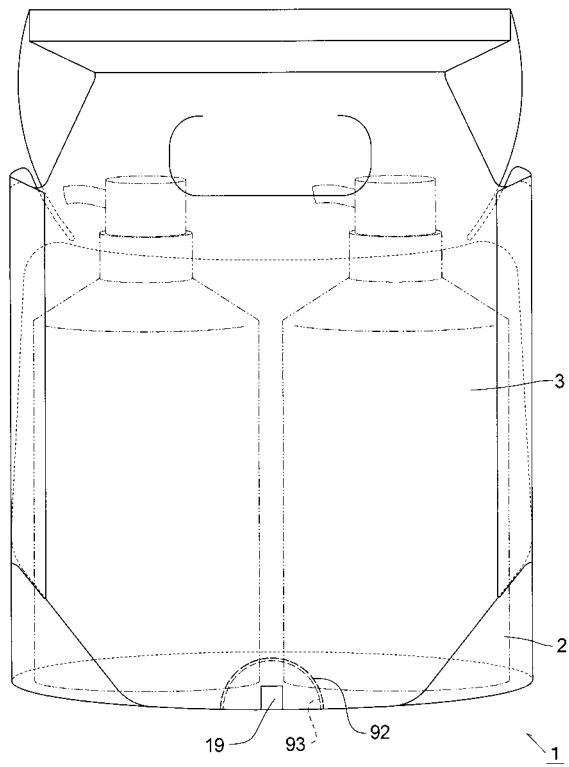
【図 5】



【図 6】



【図 11】



フロントページの続き

(72)考案者 松村 洋介

大阪府大阪市北区本庄西3丁目8番26号 相互印刷紙器株式会社内